

令和4年度 学力調査結果の分析

【国・都・市調査】

清瀬市立芝山小学校

教科	学年	観点別結果の分析	領域別結果の分析
国 語	第5学年	教科の正答率は66.5%と、目標値とほぼ同等である。また、基礎力を問う問題や活用力を問う問題では、市平均、全国平均と比べると1.5~5.2%上回っている。その一方で、観点別正答率では、「知識・技能」と「思考・判断・表現」は目標値とほぼ同等である一方で、「主体的に学習に取り組む態度」は、10%近く下回っている。児童の実態をみても、自分の考えを表現することに対して消極的だったり、苦手意識があったりする傾向もあるので、授業の中に対話場面を意図的に設定するなどの手立てを講じているところである。	領域別に分析すると、「書くこと」「言語文化」について目標値を下回っていることから、語彙を豊かにすることで、書く能力の向上につなげたい。また、「話すこと・聞くこと」「読むこと」については、いずれも5.5%上回っていることから、話の内容を聞き取ったり、読み取ったりする力について今後もしっかり身に付けられるようにしていく。 「出題内容で見てみると、大問7「文章を書く」項目での無解答が38.5%と高い数値であることから、指定された内容や構成で文章を書くことが出来ず、今後長さや構成を指定された文章を書かせることが必要である。
	第6学年	・どの観点においても全国や東京都の平均正答率よりも高い数値がでていますが、問題形式で見ると、選択式と短答式では、全国平均を10ポイント前後上回っているが、記述式に関しては、全国平均を7.3ポイント上回るにとどまっていることから記述式問題に対して授業改善を行っていく必要がある。	・「【山村さんの文章】のBに入る内容として適切なものを選択する」という問題では、東京都の平均を4ポイント下回る結果となった。日頃から自分書いた文章の表現の効果を考えていない児童が多いと感じられる。また、作者がなぜ、その表現を用いたのかなどまで深く考えられていないことが多いので、表現の効果を意識した学習を進めていく。
算 数	第5学年	教科の正答率は、58.0%と目標値を5.5%下回っている。基礎力を問う問題や活用力を問う問題では、市平均を2.4~4.8%上回っている。観点別正答率は3観点ともに市平均を上回っているが、目標値とは5.4~6.9%開いており、基礎の正答率から見ても、基礎的な内容の定着に差が見られることがわかる。	全ての領域で市の平均を上回っているものの、目標値は下回っている。問題の内容で見ると、「角の大きさ」については、全国や市の正答率を上回っているが、「面積の求め方」や「図形の作図や構成」については45.2%、「わり算・計算のきまり」の正答率は49.5%で全国の正答率との差も大きい。計算のきまりや図形・面積における既習事項を確認したり、答えの見通しをもたせたりすることで解決させることが必要である。
	第6学年	・どの観点においても全国や東京都の平均正答率よりも高い数値がでていますが、問題形式で見ると、選択式では、全国平均を10.9ポイント上回っているが、短答式、記述式に関しては、全国平均をそれぞれ6.2ポイント、8.3ポイント上回るにとどまっていることから答えや考えを記述していく力をのばしていく必要がある。	・「 $85 \times 21$ の答えが必ず大きくなることを判断するための数の処理の仕方を選ぶ」という問題では、全国、東京都の正答率を下回り、33.3ポイントと低い数値であった。数の処理や概数にすることのよさなどが分からず、学習しているようすがあるため、目的意識をもたせながら学習させていく必要がある。

